

▶26日 金曜

マタイ

18:1 そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。」

18:2 そこで、イエスは小さい子どもを呼び寄せ、彼らの真中に立たせて、

18:3 言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、はいりません。

18:4 だから、この子どものように、自分を低くする者が、天の御国で一番偉い人です。

18:5 また、だれでも、このような子どものひとりを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。

18:6 しかし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがましです。

18:7 つまずきを与えるこの世は忌まわしいものです。つまずきが起こることは避けられないが、つまずきをもたらす者は忌まわしいものです。

18:8 もし、あなたの手か足の一つがあなたをつまずかせるなら、それを切って捨てなさい。片手片足でいのちにはいるほうが、両手両足そろっていて永遠の火に投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。

18:9 また、もし、あなたの一方の目が、あなたをつまずかせるなら、それをえぐり出して捨てなさい。片目でいのちにはいるほうが、両目そろっていて燃えるゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。

18:10 あなたがたは、この小さい者たちを、



Bible Reference  
聖書の記述

ひとりでも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げます。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見ているからです。

18:11 [人の子は、滅んでいる者を救うために来たのです。]

神の価値観は永遠であり、揺るぎない確かなものです。その価値観がここで明かにされます。子どもは能力が劣っていますし、弱くまた分別のないものです。しかし、親を頼りきっています。また自分を大人のような偉大な者たとは思いません。同じように、天の父である神様に対して、信頼して頼りきり、謙遜に弱さを認めることが何よりも大切なのです。

ですから子どものように弱い小さい者は、神様から特別に愛されています。当時は子どもは尊重されませんでしたが、それは間違った価値観です。この大切な子どものように小さな者を、つまずかせることはならないのです。同じように自分自身をもつまずかせないように、その原因となるものは「切って捨てる」必要があります。惜しく思えたり、慕わしく思えるものでも、自分全体がだめになるよりはいいのです。

小さな弱い者を大切に愛し、また小さな弱い自分を大切にしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

